

視察を終えて

北海道教育大学 4年

佐々木みさほ

★ 初めに…

1. わたし
2. 原子力の平和利用
3. 雇用の場
4. 原燃PR館
5. 誇り
6. 最後に…

★ わたし

北海道教育大学函館校 4年
触媒化学の研究中

((原子力関係とは普段はあまり密接ではない...))

隣の研究室の先生のお声かけで参加

以前、同先生のお声かけで大間原子力発電所の見学
原子力関連施設の見学は今回で2回目

★ 原子力の平和利用

危険は放射性物質漏えいだけじゃない!!

警備の嚴重性

外部からの警備

関係者以外の立ち入りの制限

施設内の配置図の流出禁止

内部からの警備

IAEAの査察官が24時間365日常駐

→ 平和利用を内部から監視

★ 雇用の場

警備が厳重...PR館.....
交付金で病院...

施設が充実している
→ 人手が必要

人口流出を防ぐ手立てになる

- 負の連鎖を食い止める
- 豊かになればなるほど立地周辺地域にもメリット

★ PR館

警備が厳重 = 見学できる機会が少ない

∴ わからないことが多い...
不安...
他人事になりがち...

いつでも説明を聞きながら施設レプリカを見学できるPR館の設置

説明の受け止め方、感じ方は十人十色
熱血過ぎてもだめ..... 淡々過ぎてもだめ.....

★ 誇り

「“交付金が出るから”

.....それだけの理由で誘致に賛成したわけではない。

自分の村が日本を支えているという誇りがある。」

原子力施設を建設するということがどれだけ**重大**なことか

原子力施設建設はその人の**人生**を左右しうる大きな事案

★ 最後に…

このたび見学したことがすべてではない。

- ・立地住民の方々のお話し
- ・有識者の方々のお話し

疑う心、探究心を持って
自ら勉強する

どの情報を信じるかは自分で判断
広い視野で物事を見ることが大切